

豊中市伊丹市クリーンランド  
ごみ処理施設整備基本構想

平成 15 年（2003 年）3 月

豊中市伊丹市クリーンランド



## はじめに

豊中市伊丹市クリーンランドでは現在、平成8年度(1996年度)に策定した一般廃棄物処理基本計画に基づき、豊中市と伊丹市のごみを衛生的かつ適正に処理しています。

しかし、現在稼働中の焼却施設はすでに28年が経過し、老朽化への対応が大きな課題の一つとなっています。

一方、最近の国の施策として「循環型社会形成推進基本法」を主軸とするリサイクル関連の種々の法整備により、ごみの減量・適正処理に向けた施策体系が確立されるなど、廃棄物行政は大きな変革期を迎えています。

このような状況のなか、クリーンランドでは市民公募委員、近隣住民代表及び学識経験者から構成される「豊中市伊丹市クリーンランドごみ処理施設整備基本構想・ごみ処理基本計画策定会議」を設置し、市民と行政が協働してごみ処理施設整備の長期的なビジョンとなる「ごみ処理施設整備基本構想」を策定しました。

この基本構想では、緑のネットワークづくりを基調とした「森の中の再生工場～グリーンランド構想～」をコンセプトに、適正処理、市民との協働、まちづくりの3つの視点をもとにしたごみ処理の将来像を提起しています。

来年度は策定会議及び両市市民のご意見をいただきながら、本構想の実現に向けての具体的施策となるごみ処理基本計画を、豊中市、伊丹市の諸計画との整合を図り策定することとしております。

本構想の策定にあたり、ご議論いただいた策定会議委員をはじめ、市民のみなさま、関係の方々に厚くお礼申し上げますとともに、ごみ処理基本計画策定に際しましても、より一層のご指導、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成15年(2003年)3月

豊中市伊丹市クリーンランド管理者  
豊中市長 一色貞輝

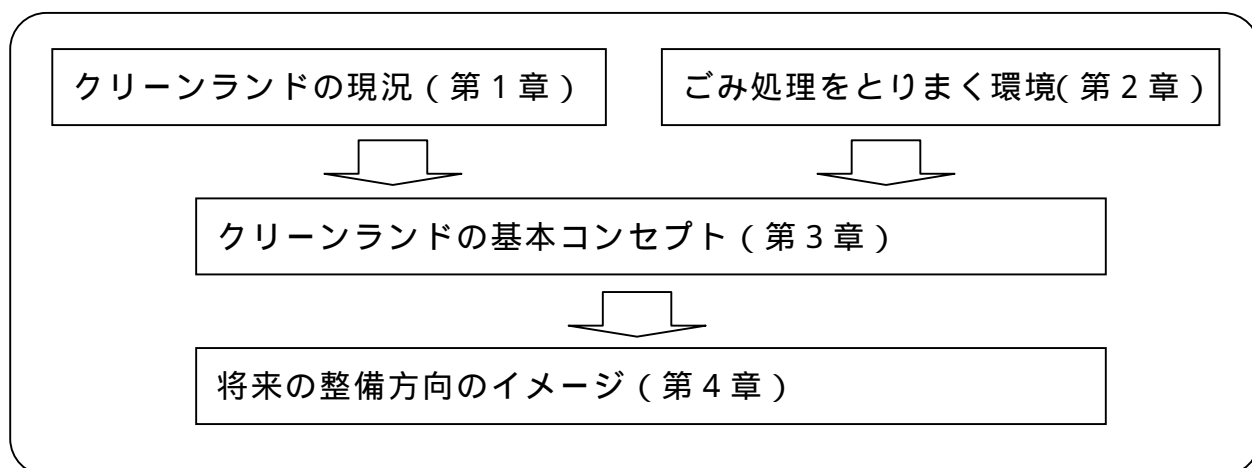


## 目 次

はじめに

第1章	クリーンランドの現況	1
1.1	クリーンランドの沿革	1
1.2	施設のあらまし	3
第2章	ごみ処理をとりまく環境	8
2.1	社会背景の整理	8
2.2	ごみ処理・リサイクル技術の革新	12
2.3	ごみ処理施設の将来の役割	14
第3章	クリーンランドの基本コンセプト	16
3.1	クリーンランドの特徴の整理	16
3.2	森の中の再生工場～グリーンランド構想～	19
第4章	将来の整備方向のイメージ	24
4.1	クリーンランドの将来の整備方向	24
4.2	3つの視点ごとの整備イメージ	25
	資料編	31

< 基本構想 本文の構成 >



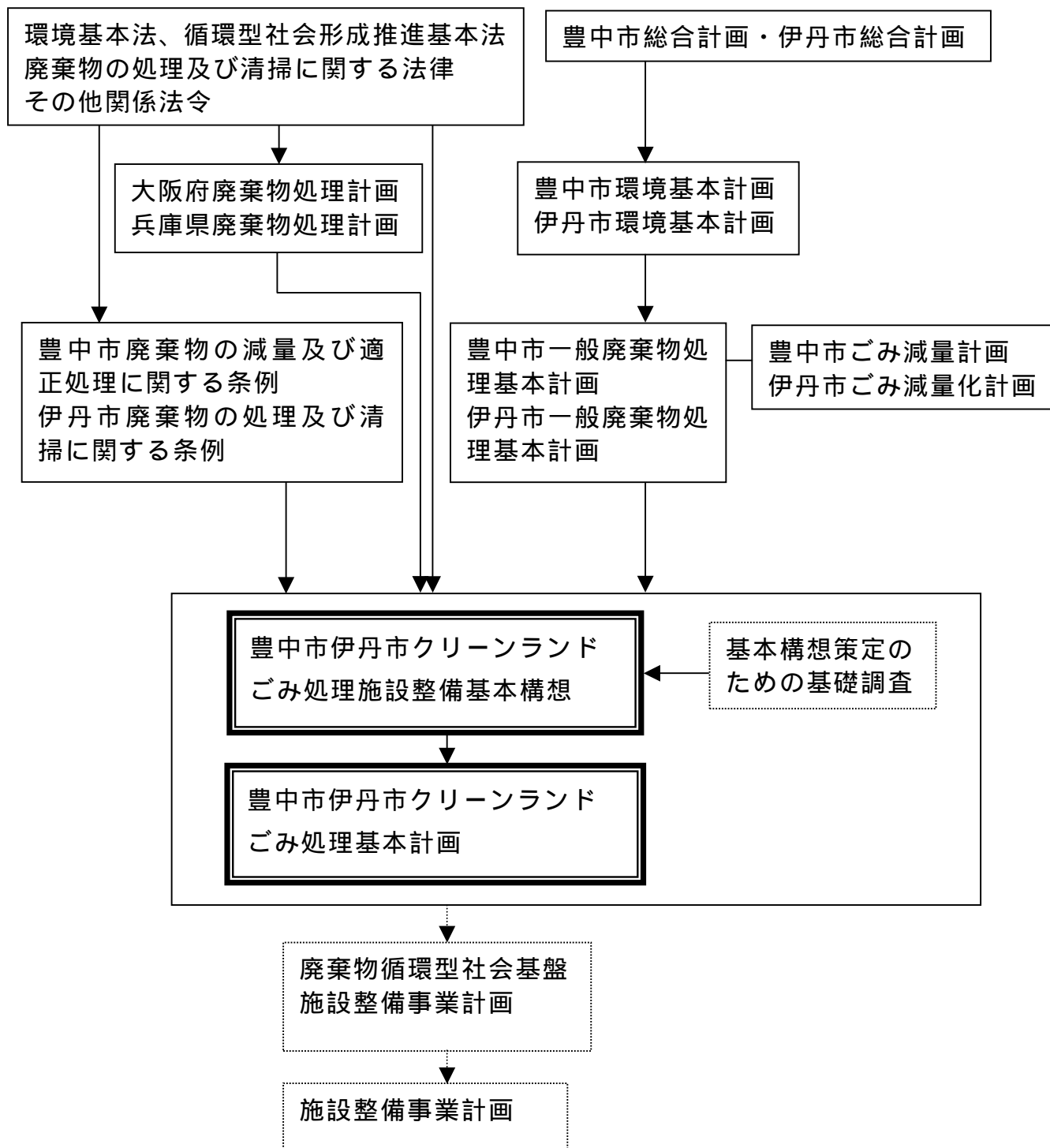


図1 ごみ処理施設整備基本構想の性格

## 第 1 章 クリーンランドの現況

### 1.1 クリーンランドの沿革

#### (1) 設立経緯

昭和 30 年代に入って、国民の生活水準の向上や社会情勢の変化による環境衛生に対する関心が高まり、豊中・伊丹両市においても、従来は埋立処理を行っていたごみやし尿を、衛生的に終末処理をする方法について、早急に考えなければならぬ状況にありました。

しかしながら、両市とも大都市周辺のベッドタウン的存在として、急激な人口増加を伴った発展をしつつあった時期で、処理施設の建設用地の確保が大変困難でしたが、大阪国際空港、猪名川に隣接する両市の境界線上に近隣住民の理解、協力を得て用地を確保することができました。

そして、豊中市（大阪府）・伊丹市（兵庫県）という行政区域の異なった両市ですが、近隣住民の了承と協力を得て、円滑な中間・終末処理を行うための一部事務組合を設立しました。

#### (2) 沿革

クリーンランド（昭和 36 年（1961 年）3 月 20 日設立）は、当初ごみ焼却場の設置と管理を目的として発足しましたが、その後し尿処理場の設置と管理を加え（昭和 37 年（1962 年）6 月 17 日）、清掃行政の中間・終末処理部門の充実を図ってきました。

昭和 37 年（1962 年）12 月、ごみ焼却場（150t/8h）に続いて昭和 39 年（1964 年）5 月、し尿処理場（300kl/24h）が竣工し、両市待望の衛生的な中間・最終処理場が実現しました。

その後、人口とごみ排出量の増加や環境問題等により、最新鋭の公害防止設備と発電設備を備えた焼却施設（675t/24h）を昭和 47 年度（1972 年度）から 4 か年継続事業で着工し、昭和 50 年（1975 年）4 月 30 日に完成して以来、衛生的で合理的なごみ処理を行っています。

平成 4 年（1992 年）9 月には、それまで両市単独で処理処分を行っていた粗大、不燃系ごみを、クリーンランドで合理的かつ適正に処理し、資源化・減容

化を図ることを目的に「粗大ごみ処理施設（135t/5h）」を建設しました。

さらに、各分野におけるO A化の普及などに伴い紙ごみの急激な増加によるごみの高カロリー化に伴う焼却能力の低下や、バブル崩壊後も増加の一途をたどるごみを両市の住環境維持・向上を図るべく適正に処理する必要性から、平成4年度(1992年度)より増設炉(195t/24h)整備事業に着手し、平成7年(1995年)3月31日に竣工しました。

また、公共下水道の普及に伴ってし尿処理量が急激に減少したため、公共下水道へ移行するまでの暫定的措置であった従来のし尿処理施設は、平成3年(1991年)7月をもって廃止されました。

平成7年度(1995年度)には、地球環境や廃棄物循環・省エネルギー問題への先導的な対応として焼却熱を有効利用した市民還元型の施設を整備することとなり、平成9年(1997年)10月に余熱利用施設「クリーンスポーツランド」が竣工しました。

平成9年(1997年)12月の廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下「廃棄物処理法」)改正に伴い、焼却炉から発生する排ガス中のダイオキシン濃度を抑制するため、平成11年度(1999年度)から3か年継続事業として、1~3号炉をバグフィルター方式に切り替える大規模工事を行い、平成14年(2002年)3月15日に竣工しました。



## 1.2 施設のあらまし

### (1) クリーンランドの位置

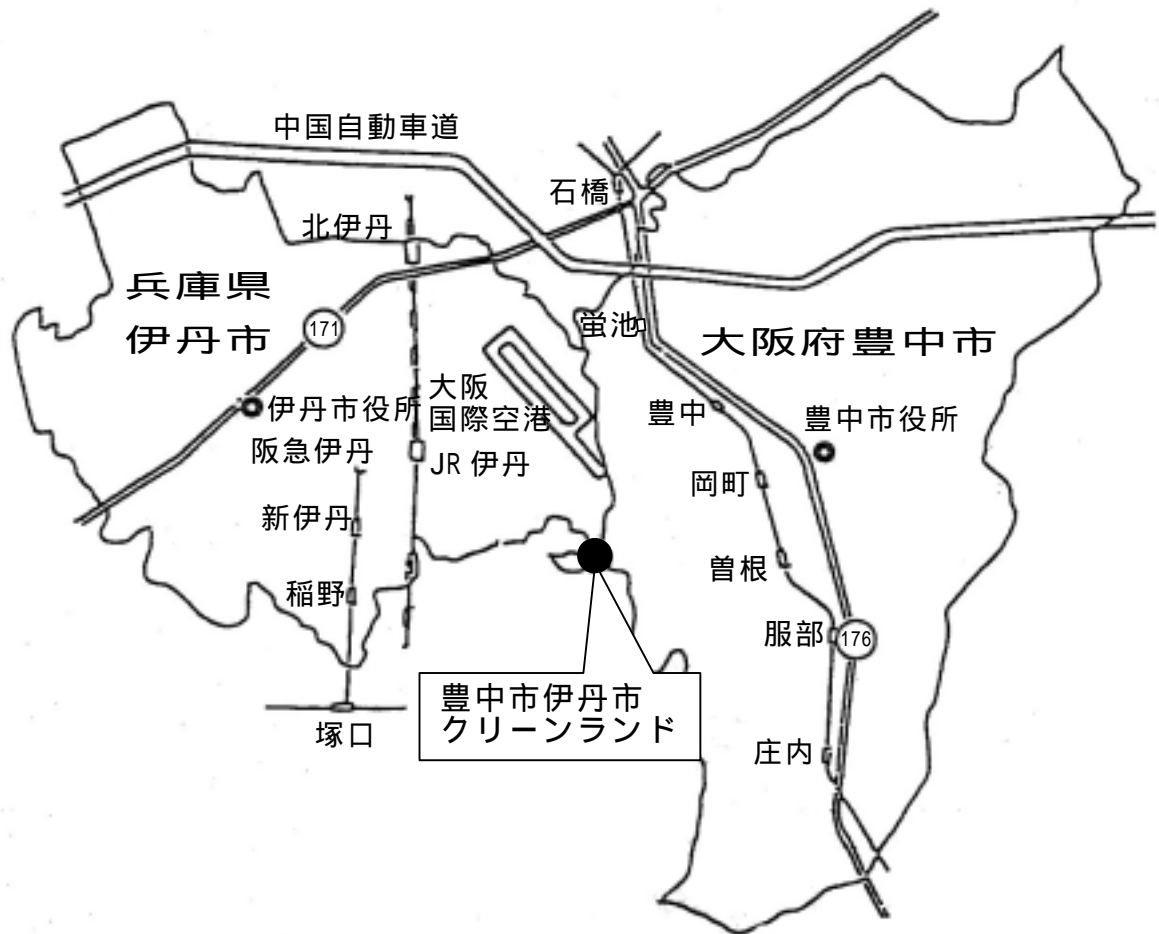


図2 クリーンランド位置図

### (2) 両市の面積、人口及び世帯数

表1 豊中市・伊丹市の面積

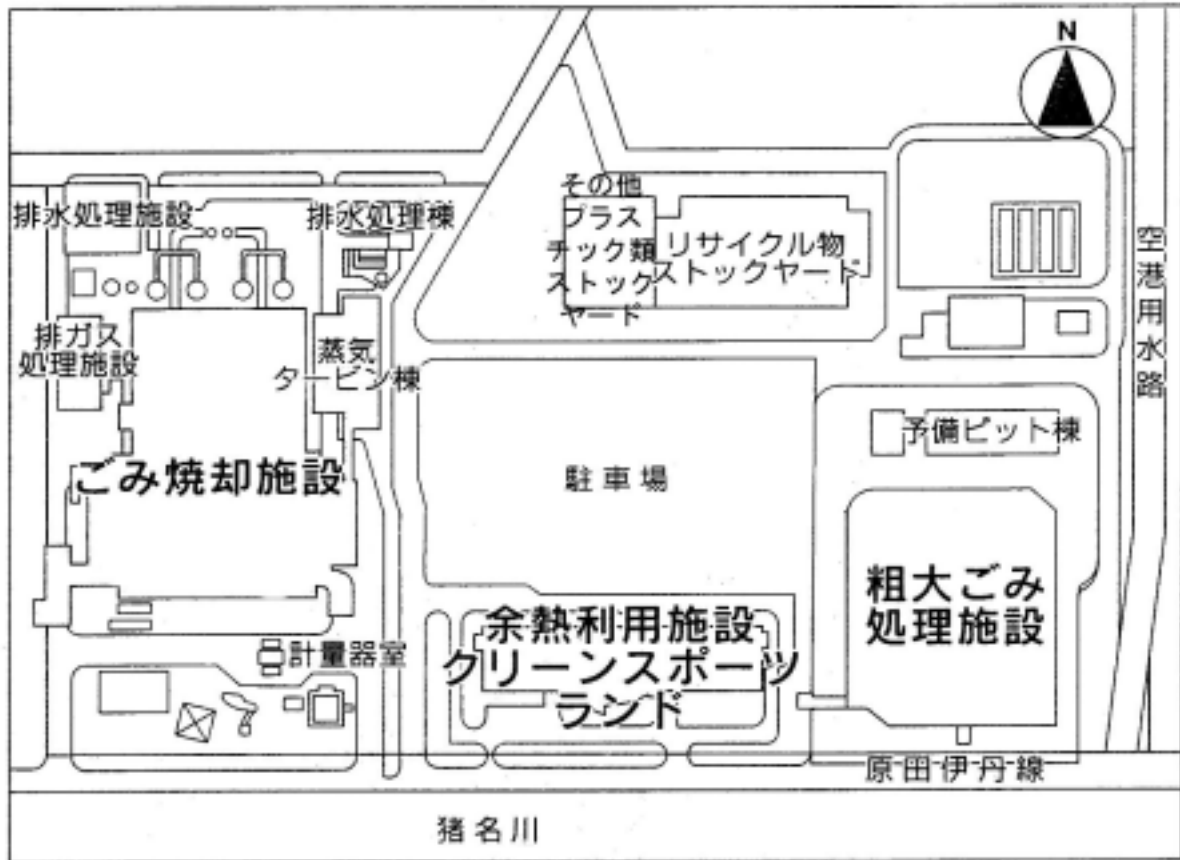
面積	
豊中市	36.60 km <sup>2</sup>
伊丹市	25.09 km <sup>2</sup>
計	61.69 km <sup>2</sup>

表2 豊中市・伊丹市の人口及び世帯数

区分 \ 市別	豊中市	伊丹市	合計
人口(人)	388,730	192,116	580,846
世帯数(世帯)	165,878	72,202	238,080

(平成15年2月現在)

(3)クリーンランドの施設配置



(ごみ焼却施設)



(粗大ごみ処理施設)



(余熱利用施設)

図 3 クリーンランド施設

#### (4)施設概要

表3 ごみ焼却施設

	1～3号炉	4号炉
焼却炉	全連続式焼却炉（ストーカ炉）	全連続式焼却炉（ストーカ炉）
処理能力	225t/24h×3基	195t/24h×1基
形式	3段揺動式火格子	3段揺動式火格子
着工	昭和47年（1972年）12月	平成4年（1992年）6月
竣工	昭和50年（1975年）4月	平成7年（1995年）3月
総工費	4,096,000千円	11,330,000千円
プラントメーカー	日立造船（株）	日立造船（株）

表4 粗大ごみ処理施設

処理能力	135t/5h
着工	平成2年（1990年）7月
竣工	平成4年（1992年）9月
総工費	4,207,550千円
プラントメーカー	日立造船（株）

表5 余熱利用施設

着工	平成7年（1995年）11月
竣工	平成9年（1997年）10月
総工費	3,861,532千円
施設内容	温水プール、アスレチックジム、フィットネススタジオ、展示啓発室、研修室、ギャラリー、展望レストラン

(5)両市のごみの流れ

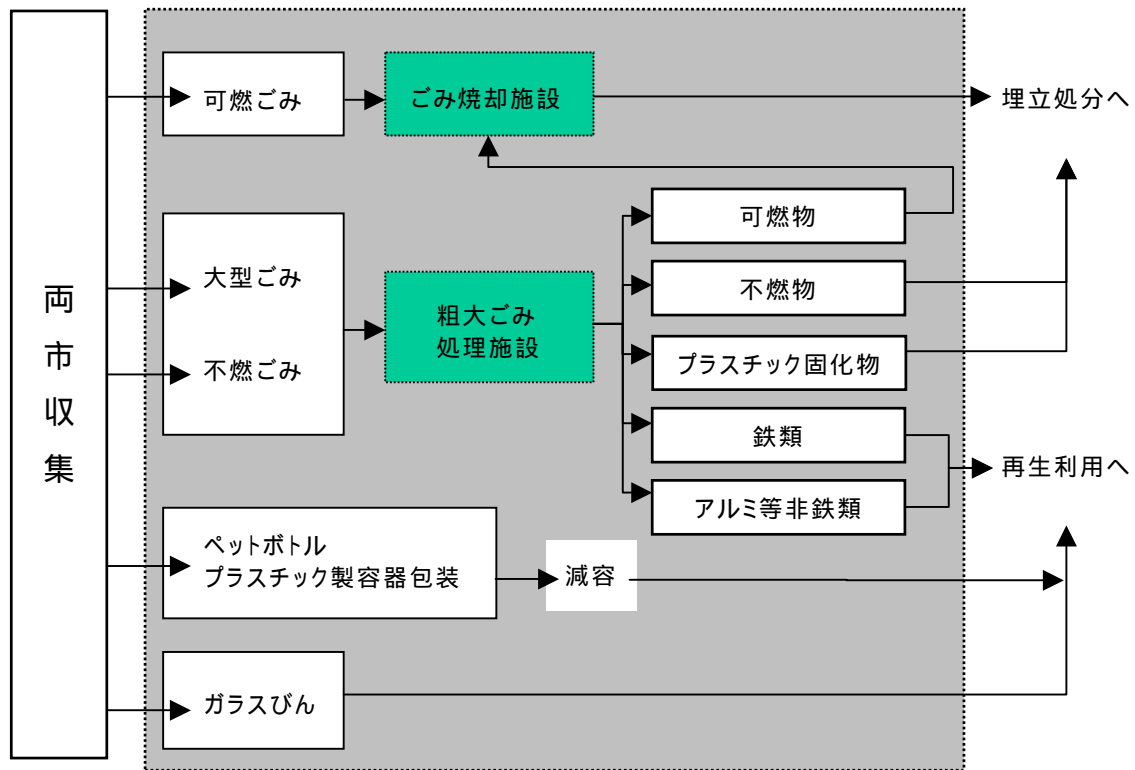


図4 両市のごみの流れ

クリーンランドにおけるごみ処理

クリーンランドは、豊中市及び伊丹市の一般廃棄物を中間処理する施設です。図4のように両市で収集されたごみ、また民間事業者等から持ち込まれるごみを処理しています。

<豊中市> 家庭ごみ、事業系ごみ

<伊丹市> 家庭ごみ、事業系ごみ

最終処分の状況

クリーンランドで中間処理<sup>\*1</sup>した焼却灰などは、全量がフェニックス<sup>\*2</sup>で埋立処分されています。フェニックス計画では、焼却灰は神戸沖及び大阪沖（建設中）処分場で平成22年度（2010年度）まで受け入れを行う予定です。それ以降のフェニックス計画は現状では未定です。

\*1 焼却したり破碎したりして、ごみの量や容積を小さくすること。

\*2 大阪湾広域臨海環境整備センター（大阪湾フェニックスセンター）；泉大津沖、尼崎沖、神戸沖、大阪沖（建設中）の埋立処分場。焼却灰の受入は、今後神戸沖と大阪沖で行われる。

現在、クリーンランドで処理する家庭系ごみの流れは次のようになります。

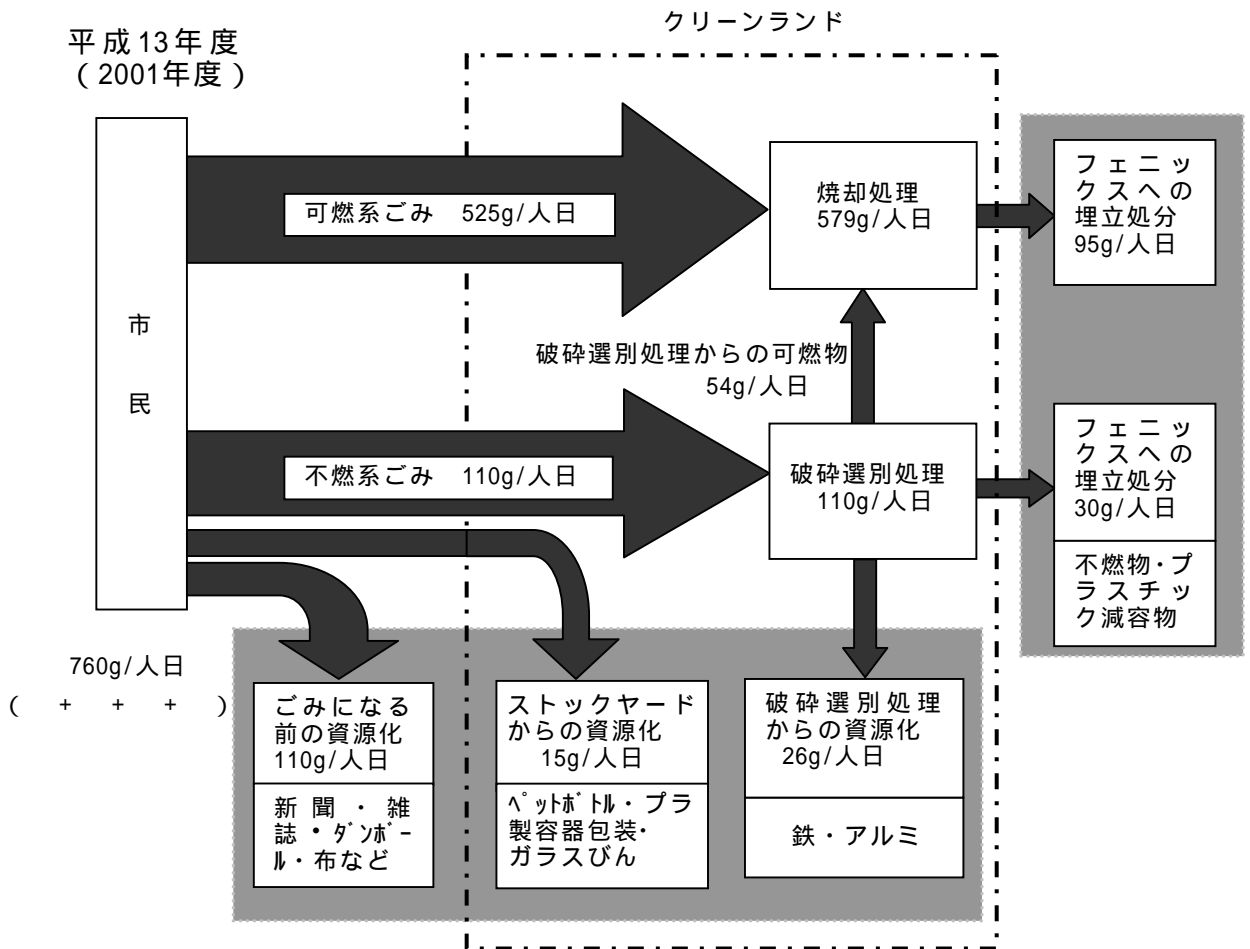


図5 両市の家庭系ごみ、資源化物の流れ

### (6) 課題

現在クリーンランドが抱えている課題として、焼却炉の老朽化への対応循環型社会<sup>\*3</sup>をめざした施設整備のさらなる充実があげられます。

これらの課題に対応していくための基本的な考え方(基本構想)をとりまとめていく必要があります。

\*3 天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減される社会。